

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problem Mailbox.**



第一国の国名	第一国の出願日	出願番号
アメリカ合衆国	1977年 11月 17日	77-733
出願	1977年 11月 17日	77-733
1977年 11月 17日		

(Y2,000)

特 許 願 (特許法第34条に於ての特許願)

特許庁長官 殿

昭和 57 年 2 月 15 日

1. 発明の名称

グラフト共重合体の製造方法

2. 特許請求の範囲に記載された発明の数 3

3. 発明者

氏 名 アメリカ合衆国イリノイ州ネイパービル、
ラーク・レーン 1508
氏 名 ラルフ、ミルコピッチ (ほか 2 名)

4. 特許出願人

氏 名 アメリカ合衆国ニュージャージー州エンゲルウッド
クリフス、インターナショナル プラザ (番地なし)
氏 名 シービーシー、インターナショナル、
インコーポレーテッド

(代表者) フランク、イー、ロビンズ

氏 名 アメリカ合衆国 (ほか 名)

5. 代理人

氏 名 東京都千代田区大手町二丁目2番1号
新大正ビルディング 831
氏 名 (3114) 代理人 浅 村 成 久 (ほか 3 名)

47 015937

方式 (特許)

明 細 書

1. 発明の名称

グラフト共重合体の製造方法

2. 特許請求の範囲

(1) リビング重合体を製造し、ハロゲン含有エポキシドまたはハロゲン含有ビニル化合物と反応させることにより該リビング重合体を末端化して重合可能な単量体を形成し、そして該単量体を重合することを特徴とするグラフト共重合体を製造する方法。

(2) リビング重合体を製造し、ハロゲン含有エポキシドまたはハロゲン含有ビニル化合物と反応させることにより該リビング重合体を末端化して重合可能な単量体を形成し、そして該単量体とオレフィンの単量体とを共重合することからなり、おおよそ線状の共重合体種および比較的均一な分子量を持ち、該種の1体化部分である重合体鎖をもつグラフト共重合体を製造し、しかも該種に対して該鎖の隣接対を結合する点が少なくとも約20個の単量体繰返し単位だけ、該種の非訪客セグメントで隔てられていることを特徴とするグラフト共重合体を製造する方法。

②1 特願昭 47-15937 ③1 特開昭 47-21486

④3 公開昭 47.(1972) 10. 4 (全 12 頁)

審査請求 有

⑤19 日本国特許庁

⑥13 公開特許公報

庁内整理番号

⑦52 日本分類

6779 45
6653 45
6424 45
6424 45
6348 45
6424 45
6714 45
6424 45

26(1)A31
26(1)A271.1
26(1)E311
26(1)E312
26(1)E162.1
26(1)E11
26(1)H122
26(1)E111

隔てられていることを特徴とするグラフト共重合体を製造する方法。

(3) 重合可能な部分を有するハロゲン含有化合物と反応させることにより一官能性リビング重合体を末端化する (terminate) ことからなる、重合可能な重合体状単量体を製造する方法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は重合体、とくに共重合体に関するものである。さらに特別の意味で、本発明は種々多様な性質を有する或る種のグラフト共重合体に関するものである。

とくに、線状の共重合体性種および比較的均一な分子量の該種の1体化部分を占める鎖を有するグラフト共重合体であつて、該種に対する該鎖の隣接対の結合点が少なくとも約20個の繰返し単位の該種の非訪客セグメントで隔てられている共重合体が記載される。

また、リビング重合体を製造し、ハロゲン含有エポキシドまたはハロゲン含有ビニル化合物と反応させることにより重合可能な単量体を形成し、

そして該単量体を重合することからなる方法が提供される。

さらに、重合可能な部分を有するハロゲン含有化合物と反応させることにより一官能性リビング重合体を生成することからなる、重合可能な重合体性単量体を製造する方法が開示される。

天然および合成の、大抵の重合体は互いに非相溶性である。特定の用途に特別の良好な性質をもつ重合体がだんだん用いられてきたからこれは漸増的に明瞭となつた。そして各重合体の持つ良好な性質を生成物に加える目的で1対の重合体を組合わせる努力を行つてきた。あまりしばしばではないが、生成配合物が不安定性を示し、そして多くの場合に2種の重合体の望ましい性質が完全に失われたから、これらの努力は不成功に終わった。ポリエチレンはたとえ、ポリイソブチレンと非相溶性であり、そして2種の配合物はいずれのホモ重合体よりも良好な物理的性質を有する。これらの欠陥は初めに不適切な混合処方に帰因したが結局、欠陥はたんに固有の非相溶性によるも

のであると結論づけられた。これは正確な説明であるといまでは認められるが、該非相溶性の一般的性格は現在ですら幾分か不明瞭のまゝである。臨性は要素であると考えられ、即ち2種の極性重合体は極性重合体および非極性重合体よりも相溶性でありがちである。また、2種の重合体はもし相溶性であるなら構造的および組成物的に幾分か似ていなければならない。さらに、特別の対の重合体は2種の重合体の相対割合の成る種の範囲内のみ相溶性でありうるし、その範囲外では非相溶性である。

1対の重合体の非相溶性の事実を一般に受け入れられるにも拘らず、創設手段に大いに興味があり、従つて重合体の組合わせの有利な性質を1つの生成物に組込めよう。

この目的を達する1つの方法はブロックまたはグラフト共重合体の製造することを含む。この仕方では、通常互いに非相溶性の2種の異なる重合体セグメントが化学的に1結に結合してある種の強制的な相溶性を与える。多くの場合、ブロックま

たはグラフト共重合体はホモ重合体またはランダム共重合体に通常見られない性質の組合わせを有する。

然しながら、ブロックまたはグラフト共重合体はアニオン重合をしやすい単量体のみを用いるからブロック重合体の場合に制限をうけるし、そしてこれは多くの潜在的重合体セグメントを減ずる。従来使用のグラフト重合体の場合、常に、実質量のホモ重合体（元のホモ重合体またはグラフト単量体のいずれかの）の存在下により特徴づけられる。該ホモ重合体が存在する機能に、これは希釈剤として役立つのみならず、グラフト共重合体に形成されるのに求められる所望の性質の有効性を本質的に損う。

本発明の目的は予定の分子量の調製を有し、ホモ重合体を比較的含まずして物理的性質の新規な組合わせを有するグラフト共重合体を提供するものである。

本発明の他の目的は該グラフト共重合体を製造する方法を提供する。

本発明はまた、制御された分子量の、単量体単位当たり1個の重合可能基を有し、遊離基、イオンまたは縮合反応に対して反応性の、重合可能な単量体を提供する。

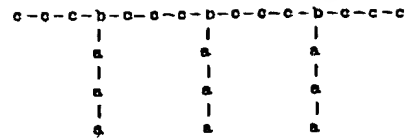
本発明の目的は、線状の共重合体および、比較的均一な分子量を有する重合体性調製を有するグラフト共重合体により達せられ、しかも該線状に対する該調製の調整対の結合点が少なくとも約20個の繰返し単量体単位の、線状の非訪者セグメントにより隔てられる。

グラフト共重合体は重合体性調製が初めアニオン重合法によつて製造される点で従来利用されるものと異つてゐる。該方法はハロゲン含有化合物と反応させることによりリビング重合体を末端化しうるし、そして適切な末端化剤を選択することにより、重合可能な末端基を有する重合体をうる。この重合体自体をさらに重合して上記の種のグラフト共重合体を形成しうる。選択的に、通常比較的軽分子量の才2の化合物と高分子量の重合可能な化合物との共重合でまたこの種のグラフト共重

合体を生ずる。

この型のとくに有用なグラフト共重合体は共重合体骨格および重合体性側鎖が熱力学的に非相溶性である。共重合体性骨格および重合体側鎖の非相溶性重合体性セグメントが該重合体セグメントに対応する重合体の物理的特性をグラフト共重合体に与えるのに十分な程度に大きいときに、該グラフト共重合体が見られる。一般に、この目的に、骨格または側鎖の部分であるかどうかにかかわらず、重合体セグメントは本質的に少なくとも20個の非相溶性の繰返し単量体単位、好ましくは少なくとも30個の繰返し単量体単位からなるべきである。

本発明のグラフト共重合体は、唯一の側鎖が共重合体骨格に共重合した時はT型(T type)構造をとると考えられる。しかしながら1個以上の側鎖が重合体骨格に共重合した時は、次式に例示する結合型(comb-type)を有するものとして特徴づけることができる。



(ただし、'a'は、少なくとも1種の実質的な機状重合体の物理的性質を明白に示めすのに十分な分子重を有する実質的に機状な均一分子量の重合体または共重合体を表わし、'b'は重合体骨格に重合して付いている側鎖'a'に化学的に結合している反応重合体末端基を表わし、'o'は重合体の物理的性質を明白に示めすのに十分な分子重を有する中断されていないセグメントを有する重合体骨格である。

上記のように、グラフト共重合体の製造は重合可能な単量体のアニオン重合で始まる。大抵の場合に、該単量体はオレフィン類を有するものであるが、エポキシまたはチオエポキシ系でありうる。

アニオン重合をうけやすい単量体は周知であり

そして本発明はすべてアニオン重合可能な単量体の使用を想定する。この例にはスチレン、α-メチルスチレン、アクリルアミド、N, N'-低級アルキルアクリルアミド、N, N'-ジ低級アルキルアクリルアミド、アセナフタレン、9-アクリルカルバゾール、アクリロニトリル、メタクリロニトリル、有機イソシアネート、たとえば低級アルキル、フェニル、低級アルキルフェニルおよびフェニルイソシアネート、有機ジイソシアネート、たとえば低級アルキレン、フェニレンおよびトリレンジイソシアネート、低級アルキルおよびアリルアクリレートおよびメタクリレート、低級オレフィン、脂肪族カルボン酸のビニルエステル、たとえばアクリレート、メタクリレート、ステアレート、パルミレート、オレイン酸エステル、ステアリン酸エステル、パルミチン酸エステル、安息香酸エステル、ビニル低級アルキルエーテル、ビニルピリジン、イソブレン、ブタジエンおよび低級アルキレンオキサイドが含まれる。'低級'の用語は8個またはそれより少ない炭素原子を含有する有機基を意味する。

該アニオン重合用の触媒はアルカリ金属アルキル、(アルキルは低級アルキル即ち、8個または

それ以下の炭素原子を有するものである)である。ブチルリチウム、とくに000-ブチルリチウムが好ましい。低級アルキルリチウムおよび低級アルキルナトリウムがとくに有用である。他の適当な触媒にはイソプロピルリチウム、エチルナトリウム、n-プロピルナトリウム、n-ブチルカリウム、n-オクチルカリウム、n-ブチルリチウム、エチルリチウム、n-ブチルリチウムおよび2-エチルヘキシルリチウムが含まれる。アルカリ金属アルキルは市販品であるかあるいは既知の方法で製造されうる。フェニルリチウム、フェニルナトリウムなどをまた触媒として使用しうるし、そして同様にプロモベンゼンおよび適切なアルカリ金属との反応によつて有利に使用しうる。

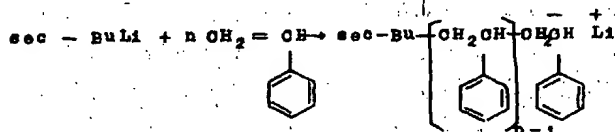
触媒濃度はリビング重合体の分子重を決定するから、アニオン重合で触媒を濃度である。もし単量体の量に対して少量の触媒を用いると、リビング重合体の分子重は、多量の触媒を用いる場合よりも大きい。一般に、有機アニオンの特性的な色が保たれるまで単量体に触媒を滴下し、そのとき、

選択せる添加順序で)、次に計算道の順様を加えることが推奨される。予備的に添加することは汚染物を破壊するのに役立ち、そしてより良好な重合の調節を行わせる。

アニオン重合は水分および他の汚染物を排除するように、細心に調節せる条件下で行われなければならない。単量体および触媒を新たに精製しそして重合を行うためには細心に精製するべきである。反応成分を精製しおよび反応触媒を精製するための技術は周知でありしてここに示す必要はない。アルカリ金属触媒を単量体に加えるかあるいは単量体を触媒に添加しうる。一般に溶剤を用いて触媒および触媒と単量体との適切な混合を容易とする。溶剤は不活性であるべきである。炭化水素、およびエーテル、たとえばベンゼン、トルエン、ジメチルエーテル、ジグリム、グリム、ジエチルエーテル、アトラヒドロフラン、 η -ヘキサン、シクロヘキサンおよび η -ヘプタンが好ましい。重合温度は単量体に左右される。スチレンの重合を一般に低温以上で行うが、 α -メチ

特開 昭47-21486 (4)

ルスチレンの重合を好ましくは -80°C で行う。アニオン重合の温度は本発明の臨界的特長でない。重合生成物はいわゆる「リビング重合体」であり、即ち、重合体の化学で用いる普通の意味で、~~本発明に~~停止されていないことであるが、さらに重合をも含めてさらに反応を受けやすいことである。スチレンを sec-BuLi -ブチルリチウムで重合する場合に、下式でアニオン重合を説明する：



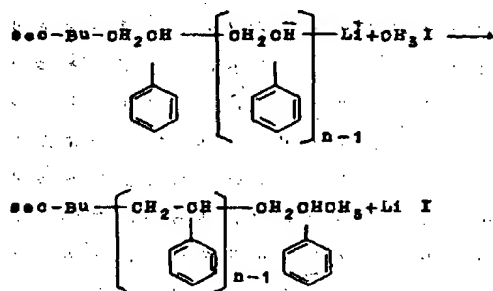
もしスチレンを上記リビング重合体に加えると、重合を新たに起こししても~~は~~単量体性スチレンが消費しなくなるまで鎖が成長する。選択的に、もしブタジエンの如き他の異性化アニオン重合可能な単量体を加えると、上記リビング重合体はブタジエンの重合を開始しそして最終リビング重合体はポリスチレンセグメントおよびポリブタジエ

字加入
字削除

字訂正

11

ンセグメントからなる。ハロゲン含有化合物と反応させることによりリビング重合体を末端化する。上記リビング重合体の炭化メタルによる末端化 (terminate) は下式によつて説明される：



リビング重合体は比較的均一な分子量によつて特徴づけられ、即ち、平均的リビング重合体中の分子量分布はきわめて狭い。分子量分布がきわめて広い典型的重合体に比して著しい。

本発明の重要な特長はグラフト共重合体の純度の分子量の均一性でありおよびこの分子量の均一性は該グラフト共重合体の全合成中のオ1段階と

して製造されたりリビングポリマーに固有である。本発明の~~とく~~に好ましい実施の順様は約5,000ないし約50,000の平均分子量を有する純度を含有するグラフト共重合体である。

リビング重合体は重合可能なオレフィン性基またはエポキシまたはチオエポキシ基のいずれかを含有するハロゲン含有化合物と反応させることにより末端化される。適当なハロゲン含有末端化剤にはアルキル基が6個またはそれ以下の炭素原子を含有するビニルハロアルキルエーテル、アルカン酸が6個またはそれ以下の炭素原子を含有するハロアルカノイツク酸のビニルエステル、ハロゲン化アリル、エビハロヒドリン、アクリリルハライド、メタクリリルハライド、ハロマレイン酸、ハロマレイン酸エステル、ハロゲン化ビニルおよびハロビニルシランを含む。ハロゲン基はそのクロロ、フルオロ、ブromo、またはアイオド基でありうるし、好ましくはクロロ基である。

上記型の末端化剤によるリビング重合体の末端化はたんにリビング重合体を製造する温度でリビ

13

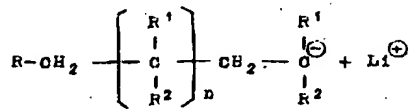
-484-

14

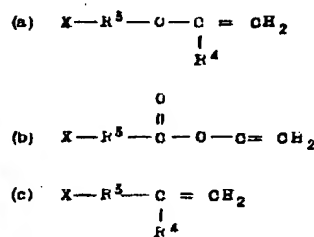
ング重合体の溶液に末端化剤を加えることにより達成される。反応は即時でありそして収量は理論的である。触媒の量に關して僅かにモル過剰の末端化剤を用いるが反応はモル対モルの基準で進行する。

次の化学式は本発明の実施によつてなされる典型的な反応を例示する。

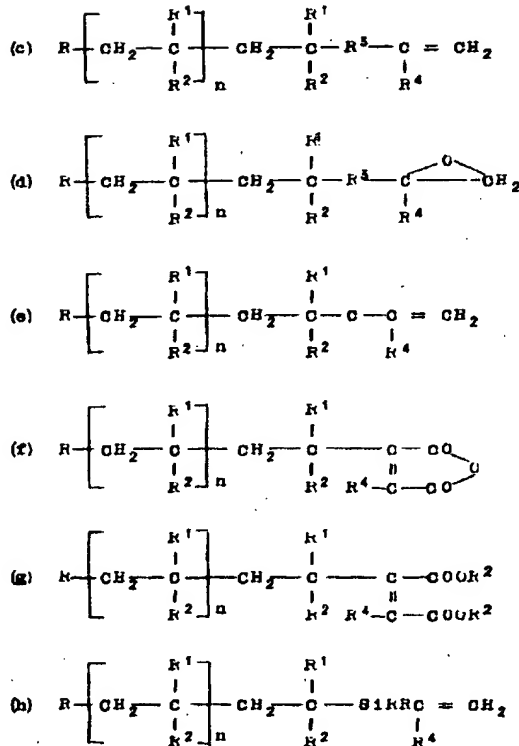
リビング重合体



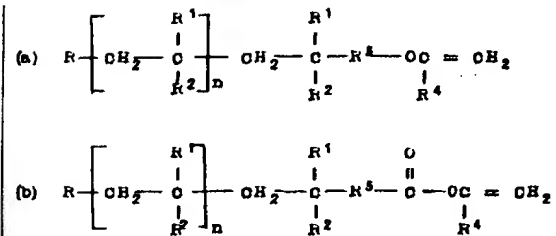
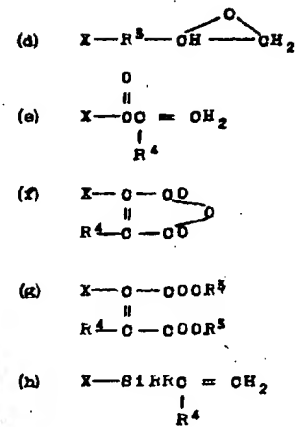
末端化剤



1.5



17



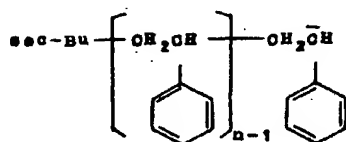
16

(上記式中、R、R¹、R²、R³およびR⁴はそれぞれ水素、低級アルキル基およびアリール基からなる群から選ばれる。好ましくは、Rはsec-ブチルのような低級アルキル基、R¹は水素またはメチル基、R²はフェニル基、R³は水素または低級アルキレン基、およびR⁴は水素または低級アルキル基である。)

ある場合に、リビング重合体および製造する単量体の性質の故に、あるいは末端化剤の性質の故に、低級アルキレンオキッド、(即ち8個またはそれ以下の酸素原子を有するもの)またはジフェニルエチレンの如き反応成分でリビング重合体を「キャッピング」することが推奨される。この「キャッピング」反応はまたリビング重合体であるが、末端化剤の官能基または活性水素と反応しやすさの少ない生成物を生ずる。たとえば、アクリルクロライドはその構造中に塩素原子が存在するから末端化剤として作用するが、また末端重合体鎖中にカルボニル基を与えそしてこのカルボニル基が次のリビング重合体により攻撃のための

中心を与えうる。末端化剤としてアクリリルクロライドの使用は、もしリビング重合体を初めにキヤピングし、次にアクリリルクロライドと反応させるなら、ずつと容易となる。もしこの中間段階でキヤピング剤を用いなければ、生成重合体は期待の分子量の2倍を有するかあるいは塩基を含有するし、これはリビング重合体がオ2のリビング重合体とまたはアクリリルクロライドの活性水素の1つと反応させることにより末端化されたことを示している。

とくに好ましい末端化剤はエチレンオキシドである。そればリビング重合体と反応し、オキシランの分解が下記のように生る：



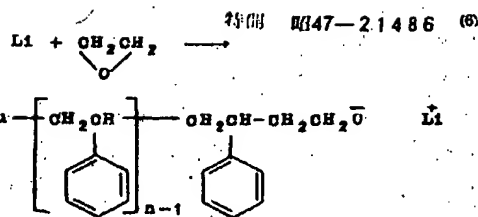
19

水フタル酸、無水マレイン酸、無水こはく酸などと共にグリコールまたはジアミンを重合することにより、生成グリコールを共重合体に変換しうる。これはまたジイソシアネートと反応してポリウレタンを形成しうる。ジイソシアネートはたとえば、400の平均分子量を有するポリエチレングリコールとモル過剰のフェニレンジイソシアネートとの反応生成物でありうる。

本発明の他の実施の態様において、有機エポキシドを、エポキシまたはチオエポキシ末端基を含有する末端化リビング重合体と共重合する。生成グラフト共重合体は少なくとも約20個、好ましくは少なくとも約50個の有機エポキシド繰返し単位の非訪害セグメントをもつ特で特徴づけられる。好ましい有機エポキシドにはエチレンオキシド、プロピレンオキシド、ブチレンオキシド、ヘキセンオキシド、シクロヘキセンエポキシド、およびステレンオキシド、(即ち8個またはそれ以下の炭素原子を有するものを含む。

末端化剤としてヘロマレイン酸無水物またはヘ

21



上式は---ブチルリチウムによるスチレンの重合で製造されたリビング重合体とキヤツピング試薬としてのエチレンオキシドとの反応を示す。

キヤピング反応は末端化反応の場合のように、重合温度でリビング重合体にキヤピング試薬を加えることによりきわめて簡単に行われる。反応は直ちに起る。末端化試薬の場合のように、塩基量に關してキヤピング試薬の僅かにモル過剰を用いる。

末端化試薬としてエピクロロヒドリンを用いるときに、水性水酸化ナトリウムと共に加温することによりこの末端エポキシ基を相当するグリコールに変換しうる。製造しうる高分子量ジカルボン酸と反応させることにより、たとえばモル過剰の銅

20

ロマレイン酸エステルを用いるときに、生成重合体は加水分解によりカルボキシ基に変換しうるエステル基を含有する。生成ジカルボキシリツタ重合体をグリコールまたはジアミンと共重合してグラフト共重合体製造を有するポリエステルおよびポリアミドを形成しうる。

上記末端化試薬とリビング重合体との反応でリビング重合体でないが自体さらに重合可能である生成物を生ずることが認められる。該種の重合は末端化試薬の二重結合またはグリコール部分またはエポキシ部分によつて進行しうるし、従つて末端化試薬はグラフト共重合体の形成時に主として作用する。該グラフト共重合体はその構造は従来技術のグラフト共重合体に一般に一致するが、従来技術のグラフト共重合体の製造法よりも著しく異つた仕方では製造される。さらに、それらは構造的に、有意義に異つている。本発明以前に、樹状"幹"を合成し、次にこの幹上にグラフトし、重合体鎖を成長することによりグラフト共重合体を製造し、そして最終結果はいくつかのぶらさがつ

22

た重合体鎖を有するものである。一方には、初め
 成ぶらさがつた重合体鎖（リビング重合体）を合
 成し、次に該重合体鎖の末端部分を幹に重合する
 ことにより本発明のグラフト共重合体を製造する。
 即ち、ぶらさがつた鎖、即ち側鎖を初めに合成し、
 次に幹を合成する。側鎖は幹の一体化部分である。
 明かに、2個の型のグラフト共重合体が一様に互
 いに似ているが、有意義に異つた方法で製造する
 が故のみならず、また本発明のグラフト共重合体
 中のぶらさがつた重合体鎖が比較的均一かつ最少
 の長さを有し、および各々幹の一体化部分をな
 すが故に、そして幹が成る種の最少長さの重合体
 性セグメントを含有するが故に、それらのグラフト
 共重合体は異つた組成を有する。これらの特性
 は該新規なグラフト共重合体に固有の有利な性質
 に本質的に帰因する。

さきに記載せるように、本発明のグラフト共重
 合体は独特の性質および独特の性質の組合わせを
 有する。これらの独特の性質および性質の組合わ
 せは非相溶性の重合体セグメントを強制的に相溶

23

フト共重合体中に重合体の物理的性質が現われる
 ことと関係をもつ重合体性セグメントの最少大き
 さは約20個の繰返し単量体単位からなるもので
 ある。好ましくは、前記のように、共重合体性幹
 のおよび側鎖の重合体性セグメントは約30個よ
 りも多い繰返し単量体単位から本質的になる。こ
 れらの重合体性セグメントは自体ホモ重合体であ
 りうるしあるいは共重合体でありうる。本発明の
 グラフト共重合体はメチルメタクリレート、ラウ
 リルメタクリレートおよび重合可能なオレフィン
 性基を含有する架橋化ポリスチレンを共重合する
 ことにより製造されうる。該グラフト共重合体の
 幹の非訪問重合体性セグメントはメチルメタクリ
 レートおよびラウリルメタクリレートの共重合体
 性セグメントである。

約20個よりも少ない繰返し単量体単位を有す
 る重合体性セグメントを含むグラフト共重合体は、
 にも拘らず、多くの用途に有用であるが、好まし
 いグラフト共重合体は種々の重合体性セグメント
 が少なくとも約20個の繰返し単量体単位を有す

25

性とする新規な方法により可能となる。ポリスチ
 レンの有利な性質をポリメチルアクリレートの有
 利な性質と組合わせうるが、これら2種の重合体
 は通常互いに非相溶性でありおよびそれらのた
 なる物理的混合物は非常に小さい強度を有しそし
 て有用でない。1つの生成物にこれらの有利な性
 質を組合わせるために、異つた重合体性セグメン
 トが比較的大きいセグメントとして存在すること
 が必要である。ポリスチレンの性質は重合体が本
 質的に少なくとも20個の繰返し単量体単位とな
 るまで明白とならない。この同一の關係はグラフト
 共重合体中に存在する重合体性セグメントに適用
 する、即ち、もしポリスチレンセグメントを含む
 グラフト共重合体がポリスチレンの有利な性質
 により特徴づけられるなら、そのポリスチレンセ
 グメントは夫々本質的に少なくとも約20個の繰
 返し単量体単位から構成されねばならない。重合
 体性セグメントの物理的性質およびその最少大き
 さの間のこの關係はすべてのグラフト共重合体の
 重合体性セグメントに適用しうる。一般に、グラ

24

るものである。

示されるように、グラフト共重合体はその製造
 時に用いる特定の単量体に、およびまた特定のグ
 ラフト共重合体内の種々の重合体セグメントの分
 子量に左右されて種々多様の物理的性質によつて
 特徴づけられるが、これらのすべてのグラフト共
 重合体は稀少で、強靱で可撓性の自己支持性フイ
 ルムとして有用である。これらのフィルムは食品
 包装材料、装飾品の糊塗布、販売のため破列する
 商品の保護包装として用いうる。

本発明は下記の実施例によつてさらに説明され
 る。各場合に、すべての材料は純粋であるべきで
 ありそして反応混合物を乾燥しおよび汚染物を皆
 まないよう注意を払うべきである。他に述べな
 い限りすべての部および量は重量に基く。

実施例1

40℃で1滴のジフェニルエチレンの溶液を、
 溶液色を保つまでペンタン中のニープチルリチウ
 ムの1.25当量で部分的に処理し、その時点でさ
 らに3.0当量(0.04モル)のニープチルリチウム

26

溶液を、次いで512g(5.0モル)のステレンを加える。重合混合物の温度を30分間40℃に維持し、その際に8ml(0.08モル)のビニル-2-クロロエチルエーテルで処理することによりリビング重合体を末端化する。メタノールにベンゼン溶液を加えることにより生成重合体を沈澱し、そして重合体を伊通により分離する。気相浸透法により測定して、その数平均分子量は7,200(理論値:7870)であり、即ち M_w/M_n は1.06よりも小さい。

実施例2

ビニルクロロアセートで末端化せるポリステレンの製造

40℃で2500mlのシクロヘキササン中のジブエニルエチレンの1割の溶液を、薄赤色を保っているまでシクロヘキササン中の α -ナフチルリチウムの12g溶液で部分的に処理し、その時点で、さらに18ml(0.024モル)の α -ナフチルリチウムを、次いで512g(5.0モル)のステレンを加える。重合混合物の温度を30分間40℃に維持し、その際に、8ml(0.040モル)のジブ

エニルエチレンの処理によりリビングポリステレンをキヤンピングし、次に6ml(0.08モル)のビニルクロロアセートで処理することにより末端化する。メタノールにシクロヘキササン溶液を加えることにより生成重合体を沈澱し、そして重合体を伊通により分離する。気相浸透法により測定して、その数平均分子量は12,000(理論値:13,265)であり、そして分子量分布は非常に狭い、即ち M_w/M_n は1.06よりも小さい。

実施例3

エピクロロヒドリンで末端化せるポリステレンの製造

リビングポリステレンのベンゼン溶液を実施例1で製造し、そして10g(0.10モル)のエピクロロヒドリンで処理することにより末端化する。末端化ポリステレンをメタノールで沈澱し、および伊通により分離する。気相浸透法で示されるその分子量は8660(理論値:7,757)であり、そしてその数平均分子量分布は非常に狭い。

実施例4

ビニルクロロアセートで末端化せるポリ(α-

27

メタルステレン)の製造

2500mlのテトラヒドロフラン中の557g(5.0モル)α-メタルステレン溶液を、薄赤色を保つまで、ペンタン中の α -ナフチルリチウムの12g溶液で滴加処理する。その際に、 α -ナフチル溶液のさらに15.0ml(0.03モル)を加え、鮮明な赤色を呈する。混合物の温度を-80℃に下げ、そしてその温度で30分後に、5.6mlのジブエニルエチレンを加える。生成混合物を5.0ml(0.04モル)のビニルクロロアセートに注入し、そして末端化ポリ(α-メタルステレン)をメタノールで沈澱し、そして伊通で分離する。気相浸透法で測定して、その数平均分子量は14,280(理論値:12,045)であり、そして分子量分布は非常に狭い。

実施例5

アリルクロライドで末端化せるポリ(α-メタルステレン)の製造

2500mlのテトラヒドロフラン中のα-メタルステレン472g(4.0モル)の溶液を、薄赤

28

色を保つまでヘキササン中の α -ナフチルリチウムの12g溶液で滴加処理する。この α -ナフチルリチウムのさらに30mlを加え、鮮明な赤色を呈する。混合物の温度を-80℃に低下し、そしてこの温度で30分後に、4.5g(0.06モル)のアリルクロライドを加える。赤色が殆んど即座に消失し、リビング重合体の末端化を示している。生成せる無色の溶液をメタノールに注入して末端化ポリ(α-メタルステレン)を沈澱し、これは気相浸透法で、11,000(理論値:12,300)の数平均分子量を有することを示している。

実施例6

メタクリルクロライドで末端化せるポリステレンの製造

2500mlのペンゼン中の0.2mlのジブエニルエチレン溶液に、薄い赤褐色を保つまでヘキササン中の α -ナフチルリチウムの12g溶液を滴下する。この α -ナフチルリチウム溶液のさらに2.4ml(0.031モル)を加え、次に4.16g(4.0モル)ステレンを加えると、オレンジ色を呈する。外部冷却によりおよびステレンを加える速さを調

29

30

動することにより40℃の温度を維持する。すべてのスチレンを加えてのちにさらに30分間この温度を維持し、次に20℃に低下し、その際に4.4g(0.1モル)のエチレンオキシドを加えると、溶液を無色とする。10g(0.1モル)のメタクリリルクロライドと反応させることによりリビング重合体を末端化する。生成重合体は気相浸漬法で示される10,000の数平均分子量を有する。

上記処方にてアクリリルクロライドをメタクリリルクロライドでおきかえて、ポリスチレン鎖上にアクリル酸エステル末端基を与えうる。

実施例1〜6は末端化リビング重合体の製造を示す。これらを実施例7〜14の処方にて出発材料として用いてグラフト共重合体を製造する。末端化リビング重合体はグラフト共重合体中の側鎖として現われ、末端化リビング重合体の直付可能な末端基はグラフト共重合体の幹の一体化部分として終る。

実施例7

51

実施例8

ビニルクロロアセテートで末端化せるポリ(α-メチルスチレン)およびアクリル酸エチルのグラフト共重合体の製造

ビニルクロロアセテートで末端化しかつ12,600の平均分子量を有するポリ(α-メチルスチレン)50gおよびアクリル酸エチル450gの1,000gのトルエン中の溶液を70℃で攪拌でパージし、次に1gのアゾビスイソブチロニトリルで処理した。温度を70℃で24時間維持してグラフト共重合体の溶液を生成し、これをガラス板上にフィルムとして圧延する。乾燥フィルムは僅かに粘糊であり、シクロヘキサンによる抽出および上記のようにシクロヘキサン抽出分の蒸発でポリスチレンセグメントを含有することを示す。

実施例9

エビクロロヒドリンで末端化せるポリスチレンおよびイソブチレンのグラフト共重合体の製造

エビクロロヒドリンで末端化しかつ10,000の平均分子量を有するポリスチレンマクロマー

ビニル-2-クロロエチルエーテルで末端化せるポリスチレンおよびアクリル酸エチルからのグラフト共重合体の製造

500gの脱イオン化水中の18gのオクタルフエノキシポリエトキシエタノール(乳化剤)の溶液に、ワーリング・ブレンダー中で激しく攪拌しつつ、実施例1のポリスチレン生成物30gおよびエチルアクリレート70gの溶液を加える。生成分散液を攪拌でパージし、次に65℃で攪拌しつつ加熱し、その際、0.1gの過硫酸アンモニウムを加えて重合を開始する。その際、200gのエチルアクリレートおよび2gの水性過硫酸アンモニウム0.5gを3時間に亘つて、滴加し、その温度をその間65℃で維持する。生成グラフト共重合体エマルジョンをガラス板上に圧加しそして可燃性の自己支持性フィルムに迅速で風乾する。ポリスチレンを溶解するシクロヘキサンで抽出することによりポリスチレンセグメントを速乾しフィルムを示し、蒸発時のシクロヘキサン抽出分は残液を生じない。

52

(macromer)20gの1,000gのトルエン中の-70℃での溶液に、8gのイソブチレンを加える。45gの三塩化硼素エチルエーテル錯体を徐々に添加し、その温度を-70℃に維持する。触媒を加えるにつれて重合が起りそしてすべての触媒を加えてしまつてのちに殆んど直ちに完了する。トルエンを蒸発しそしてメタノールで残留固体を洗浄することによりグラフト共重合体をうる。

実施例10

エビクロロヒドリンで末端化せるポリスチレンおよびイソブチレンのグラフト共重合体の製造

-70℃で塩化メチル1,000gに、エビクロロヒドリンで末端化し、10,000の平均分子量を有するポリスチレンマクロマー10gを加える。-70℃に維持せるこの溶液に、400gの塩化メチル中の2gの塩化アルミニウム溶液および90gのイソブチレンを同時に加へる。これらの添加に要する時間は1時間でありおよびこの終りに重合は実質的に完了する。生成せる不溶性のグラフト共重合体を塩化メチレンの蒸発によ

53

54

り析出する。

実施例 11

エピクロロヒドリンで末端化せるポリステレンマクロマーおよびポリテトラメチレンエーテルジイソシアネートのグラフト共重合体の製造

600gのテトラヒドロフランに2,900の平均分子量を有するポリテトラメチレンエーテルグリコール290gを溶解し、この溶液を磁棒でパージし、次にジフェニルメタンジイソシアネートに構造的に類似しかつアブジロン・コンパニからイソネート145gとして利用できる液体ジイソシアネート14.4g(0.05モル)を加えることによりポリテトラメチレンエーテルジイソシアネートを製造する。これらの反応成分を含有するびんを検査しそして80℃で水浴に入れ、約80rpmで転回する。8時間後に、上記液体ジイソシアネートをさらに7.2g(0.025モル)を加えそしてさらに8時間反応を続ける。この点で4.55g(0.05モル)の2,4-トリレンジイソシアネートを加えそしてさらに8時間同一の条

55

実施例 12

ポリテトラメチレンエーテルジイソシアネートおよびポリステレングリコールのグラフト共重合体の製造

2,900の平均分子量を有するポリテトラメチレンエーテルグリコール87gおよび実施例11で合成せる液体ジイソシアネート4.5g(0.015モル)の混合物を含有する反応びんを検査し、磁棒でパージし、そして65℃で8時間水浴に入れる。生成の高分子量のポリクレタングリコールを磁棒で冷却しそして6,600の平均分子量を有するポリステレングリコール(実施例11のように製造)4.8gおよび550gのテトラヒドロフランを加えそしてびんを検査する。磁棒でパージしてのちに、5.8g(0.025モル)の上記液体ジイソシアネートを加えそしてびんを65℃で8時間回転する。ガラス板上に沈着しかつ風乾することによりグラフト共重合体を可塑性の弾性フィルムとして析出する。その抗張力は1,000 psiである。

56

件下で重合を継続する。

エピクロロヒドリンで末端化しかつ12,000の平均分子量を有するポリステレンマクロマー200gの100gのテトラヒドロフランおよび100gの水中溶液にpHを2.0に調整するのに充分な量の稀硫酸を添加する。生成溶液を65℃で8時間かきまぜ、グリコール基へのエポキシ基の完全な加水分解を生ずる。

60gのテトラヒドロフラン中の上記ポリテトラメチレンエーテルジイソシアネート6.0gの溶液、上記ポリステレングリコール6.0gおよび100gのテトラヒドロフランの混合物を0.6gのオクタエーテルと共に混合びんに入れる。びんを検査し、磁棒でパージしそして8時間65℃で水浴に入れてグラフト共重合体を生成する。その1部をガラス板上に沈着しそして可塑性の弾性フィルムに風乾する。これを少片に切断しそして150℃でかつ20~50 psiでフィルムに成形し、この抗張力は1500 psiであると分る。

56

実施例 13

メタクリリルクロライドで末端化せるポリステレンマクロマーおよびアクリル酸エタルのグラフト共重合体の製造

メタクリリルクロライドで末端化しかつ実施例6で製造せる10,000の平均分子量を有するポリステレンマクロマー21g、アクリル酸エタル28gおよびアソビスイソブチロニトリル0.055gの混合物を磁棒で製造しそして磁棒下で67℃で18時間維持する。生成物は微細で、乳白色の材料であり、160℃で成形して微細、微細で透明なシートを与えうる。

実施例 14

アリルクロライドマクロマーで末端化せるポリ(メチルステレン)およびエチレンからのグラフト共重合体の製造

アリルクロライドで末端化しかつ実施例5のように製造せる27,000の平均分子量を有するポリ(メチルステレン)2.0gの100gのシクロヘキサン中の溶液を製造しそしてヘキサン中

56

の0.645Mのジエチルアルミニウムクロライド
5.5mlおよびバナジウムオキシトリクロライド2
mlで処理し、次にエチレンで50psigに加圧す
る。この系を50℃で約1時間温和に攪拌し、そ
の際に重合体材料が溶液から沈降する。それを伊
過により回収しそして強靱かつ可塑性の高い透明
フィルムに加圧する。

代理人 浅 村 成 久

外 5 名

6. 添付書類の目録

(1) 特許請求の範囲 1 頁
(2) 明 細 書 1 冊
(3) 図 面 1 冊
(4) 出願書 1 冊
(5) 出願書 1 冊
(6) 出願書 1 冊
(7) 出願書 1 冊
(8) 出願書 1 冊
(9) 出願書 1 冊
(10) 出願書 1 冊
(11) 出願書 1 冊
(12) 出願書 1 冊
(13) 出願書 1 冊
(14) 出願書 1 冊
(15) 出願書 1 冊
(16) 出願書 1 冊
(17) 出願書 1 冊
(18) 出願書 1 冊
(19) 出願書 1 冊
(20) 出願書 1 冊
(21) 出願書 1 冊
(22) 出願書 1 冊
(23) 出願書 1 冊
(24) 出願書 1 冊
(25) 出願書 1 冊
(26) 出願書 1 冊
(27) 出願書 1 冊
(28) 出願書 1 冊
(29) 出願書 1 冊
(30) 出願書 1 冊
(31) 出願書 1 冊
(32) 出願書 1 冊
(33) 出願書 1 冊
(34) 出願書 1 冊
(35) 出願書 1 冊
(36) 出願書 1 冊
(37) 出願書 1 冊
(38) 出願書 1 冊
(39) 出願書 1 冊
(40) 出願書 1 冊
(41) 出願書 1 冊
(42) 出願書 1 冊
(43) 出願書 1 冊
(44) 出願書 1 冊
(45) 出願書 1 冊
(46) 出願書 1 冊
(47) 出願書 1 冊
(48) 出願書 1 冊
(49) 出願書 1 冊
(50) 出願書 1 冊
(51) 出願書 1 冊
(52) 出願書 1 冊
(53) 出願書 1 冊
(54) 出願書 1 冊
(55) 出願書 1 冊
(56) 出願書 1 冊
(57) 出願書 1 冊
(58) 出願書 1 冊
(59) 出願書 1 冊
(60) 出願書 1 冊
(61) 出願書 1 冊
(62) 出願書 1 冊
(63) 出願書 1 冊
(64) 出願書 1 冊
(65) 出願書 1 冊
(66) 出願書 1 冊
(67) 出願書 1 冊
(68) 出願書 1 冊
(69) 出願書 1 冊
(70) 出願書 1 冊
(71) 出願書 1 冊
(72) 出願書 1 冊
(73) 出願書 1 冊
(74) 出願書 1 冊
(75) 出願書 1 冊
(76) 出願書 1 冊
(77) 出願書 1 冊
(78) 出願書 1 冊
(79) 出願書 1 冊
(80) 出願書 1 冊
(81) 出願書 1 冊
(82) 出願書 1 冊
(83) 出願書 1 冊
(84) 出願書 1 冊
(85) 出願書 1 冊
(86) 出願書 1 冊
(87) 出願書 1 冊
(88) 出願書 1 冊
(89) 出願書 1 冊
(90) 出願書 1 冊
(91) 出願書 1 冊
(92) 出願書 1 冊
(93) 出願書 1 冊
(94) 出願書 1 冊
(95) 出願書 1 冊
(96) 出願書 1 冊
(97) 出願書 1 冊
(98) 出願書 1 冊
(99) 出願書 1 冊
(100) 出願書 1 冊

7. 前記以外の発明者、特許出願者または代理人

(1) 発 明 者

居 所 アメリカ合衆国イリノイ州パロス ハイッ、
シーダー レーン 12863

氏 名 ムトンダ、トーマス、チアング

(2) 出 願 人

(3) 代 理 人

居 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号

新大手町ビルディング331

電 話 (211) 3651 (代表)

氏 名 (6669) 弁理士 浅 村 皓

居 所 同 所

氏 名 (6133) 弁理士 和 田 義 寛

居 所 同 所

氏 名 (6772) 弁理士 西 立 人

39

手 続 補 正 書 (自発)

昭和47年3月29日

特許庁長官殿

1. 事件の表示

昭和47年特許願第 15937 号

2. 発明の名称

グラフト共重合体の製造方法

3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住 所 シービーシー、インターナショナル、インコーポレーテッド
(氏 名)

4. 代 理 人

居 所 東京都千代田区大手町二丁目2番1号

新大手町ビルディング331

電 話 (211) 3651 (代表)

氏 名 (3114) 浅 村 成 久

5. 補正命令の日付

昭和 年 月 日

6. 補正により増加する発明の数

7. 補正の対象

明細書の発明の詳細な説明の欄

8. 補正の内容 別紙のとおり

1. 明細書第2頁第3行

「占める」の後に「重合体性」をそう入する。

2. 同第4頁第4行

「機性は」の後に「その」をそう入する。

3. 同第5頁第2行

「/ 対の」を削除し、「重合体」の後に「対」を
そう入する。

4. 同第6頁第4行

「の製造」を「を製造」に訂正する。

5. 同第7頁第3行

「形成される」を「形成する」に訂正する。

6. 同第8頁第1行

「20」の前に「約」をそう入する。

7. 同第9頁第4行

「である。」を「である。）」に訂正する。

8. 同第10頁第1行

「備」を「備かに」に訂正する。

9. 同第11頁第4行

「その」を削除する。

10. 同第12頁第4行

「となる。」の後に「生成リビング重合体は實質的に純粋なエステルであり、即ちアクリルクロライドの分子により末端化されたリビング重合体である。」をそう入する。

11 同第2頁下から2行

「有するもの」を「有するもの」に訂正する。

12 同第2頁下から3行

「される」の後に「ことが認められる」をそう入する。

13 同第2頁下から4行

「20」の所に「約」をそう入する。

14 同第2頁下から7行

「投遊」の後に「圧」をそう入する。

15 同第2頁下から5行、第30頁下から2行

「滴加」を「滴下」に訂正する。

16 同第2頁下から8行

「上げ」を「下げ」に訂正する。

17 同第3頁下から10行

「その際し」を「その際に」に訂正する。

18 同第3頁下から13行

「且つて、」を「且つて」に訂正する。

19 同第3頁下から14行

「6.50で」を「6.50に」に訂正する。

20 同第3頁下から17行

「レフィルム」を「してフィルム」に訂正する。

21 同第3頁下から18行

「その位置」の前に「間中」をそう入する。

22 同第3頁下から15行、第36頁下から4行、第37頁下から8行

「を栓」を「の栓」に訂正する。